

編集:日本弁護士連合会
国際室

No.42

会員専用ホームページの
国際ページはこちら(本紙に記載されている
イベント等の詳細をご覧
いただけます。)

国際法曹協会 (IBA) 年次大会に参加して

昨年10月7日から12日、世界最大の国際法曹団体であるIBA(国際法曹協会)の年次大会がイタリアのローマにて開催されました。大会期間中は、人権、公益活動、ビジネス法、弁護士業務等の幅広い分野のセッションと数多くのレセプションが実施され、参加者の研鑽や交流が活発に行われました。

若林茂雄副会長をはじめとする日弁連の代表団は各種会議出席のほか、英国やドイツの弁護士会、LAWASIA(アジア太平洋法律家協会)やPOLA(アジア弁護士会会長会議)といった国際法曹団体との間で、通信秘密の保護に関する各国の情勢や法の支配に対する脅威との闘いに関する活動等についての情報・意見交換を行いました。

IBAでは、法律業務、弁護士会や法曹の在り方に関する様々なガイドラインを策定しベスト・プラクティスを提供することも活発に行われており、今回の理事会では2011年に制定された「法曹のための国際的行動原則」の改訂が決議されました。

今年の年次大会は9月に韓国のソウルで開催されます。国際交流を身近に感じられる絶好の機会ですので、奮ってご参加ください。

(国際室室長 松井 敦子)

国際弁護士連盟 (UIA) 年次大会に参加して

日弁連は昨年6月、国際弁護士連盟(UIA)に団体会員として加盟し、この度、昨年10月30日から11月3日までポルト(ポルトガル)で開催されたUIA年次大会に、若林茂雄副会長が日弁連執行部として初めて参加しました。

UIAは1927年に設立された国際法曹団体であり、世界110か国に会員を擁しています。日弁連の加盟に伴って、東澤靖会員(第二東京)が日弁連の推薦によりUIA会長相談役に指名されており、また、UIA日本委員会委員長の早川吉尚会員(東京)をはじめとして、日本の個人会員も活躍しています。

UIAは多言語・多文化を重視している点に特徴があり、年次大会も、英語・フランス語・スペイン語で進行され、この3つのいずれかを話せば良いようになっていました。このため、アフリカや南米などからの参加も多くなっています。

年次大会のメインテーマは、「現代奴隸の法的課題」と「デジタル時代の法律実務」の2つで、これらのテーマに関するものなど、多数のセッションやイベントが開かれました。日弁連は、メインテーマに関するセッションや団体会員を集めたセッションなどに参加し、最新の動向への知見を深め、世界からの参加者と交流を行いました。

(国際室嘱託 尾家 康介)



基調講演を行うポルトガルのマルセロ・レベロ・デ・ソウザ大統領

LAWASIAカンボジア大会に参加して

昨年11月2日から11月5日まで、カンボジアのシェムリアップにおいて、第31回LAWASIAカンボジア大会が開催されました。日弁連からは、亀田紳一郎副会長をはじめとする代表団のほか、多くの会員が参加しました。本大会の参加者数410名のうち、日本の法曹の参加は84名にのぼり、そのうち53名は、LAWASIA東京大会2017組織委員会「国際人材育成プロジェクト」による支援を利用して参加した若手会員で、現地では至るところで若い日本の法曹が海外からの参加者とネットワークを構築する光景が見られました。

大会2日目に実施された、「ヤングロイヤーズフォーラム」のセッションは、LAWASIAの若手会員から構成されるヤングロイヤーズセクションとAIJA(若手法曹国際協会)が共同で企画し実施されました。このセッションでは、数多くの涉外案件を扱う、マレーシア、ベトナム及び日本の弁護士がパネリストとして、若手法曹に向けて自らのキャリア形成について語りました。若手弁護士を中心に会場はほぼ満席で、どのように国際派弁護士としてのキャリアを形成すべきか活発な意見交換が行われました。

大会の本会場は、世界遺産であるアンコールワットの近くであり、プログラム開始前の早朝にアンコールワットに立ち寄り、壮大な日の出を拝む参加者も数多く見られました。

第32回大会は、今年の11月6日から11月9日の日程で、香港において開催される予定です。

(国際室嘱託 竹内 千春)



世界遺産・アンコールワットのバイヨン寺院

CNBと友好協定締結1周年記念 セミナー&レセプションを開催しました!

日弁連はフランス各地の弁護士会代表者により構成される全国弁護士会評議会(CNB)との間で昨年友好協定を締結しました。この度、CNBの企画でフランスから約100名の弁護士が来日するのに合わせて、昨年11月20日、CNBと共同で、友好協定から1周年を記念するセミナーを開催し、レセプションで友好を温めました。

フランスからはクリスティアヌ・フェラルーシュルCNB会長ほか約100名の弁護士、日本からは菊地裕太郎会長ほか日弁連執行部や国際関係の委員会から約50名の会員が参加しました。

セミナーは、①仲裁や裁判外紛争解決(ADR)、②涉外家事法制、③IT関係の法制について、両国での最新の動向を、日仏それぞれのスピーカーが報告しました。

レセプションでは、フェラルーシュル会長が、CNBでの法教育の取組(教育省と連携して、フランス全国の中学校に弁護士を一斉に派遣し、SNS利用時の危険性について出前授業を行なった)を紹介する場面もありました。

CNBからの訪問団は、日本の法律事務所見学や最高裁判所見学などのプログラムにも参加し、日仏の相互理解と、日弁連・CNBの友好関係の強化に資する機会となりました。

(国際室嘱託 尾家 康介)

日弁連海外ロースクール推薦留学制度 発足20周年記念シンポジウムを開催しました!

2018年で日弁連海外ロースクール推薦留学制度発足から20年の節目の年を迎えたことを記念して、昨年12月3日、20周年記念シンポジウムを開催しました。

2部構成のシンポジウムの第1部では、2016年度と2017年度に留学を終えた会員や現在まさに留学中の会員5名から、留学先の生活・研究環境や留学までの準備等について最新の情報を報告・共有いただきました。

続いての第2部では、過去に本制度を利用して留学をした会員6名に、留学経験のキャリアへの活かし方や本制度での留学の意義等について発表いただきました。帰国後の国際人権NGOの立ち上げ、国連の特別報告者の招聘、学校でのいじめ問題への取組、成年被後見人への意思決定支援の海外モデルの日本での普及活動といった帰国後の活躍のほか、アメリカで経験された自由の精神や意見表明の重要性に関するエピソード等、それぞれの先生方の経験談やメッ

セージは留学の醍醐味を実感する、とても心に響くものでした。

今後もより多くの会員に本制度を利用していただき、特定の研究分野の知識・知見の深化だけでなく、視野を広げ、豊かな感性を磨き、そして刺激的な経験の溢れる留学にチャレンジしていただければと思います。

(元国際室嘱託 皆川 涼子)



経験者の報告に熱心に耳を傾ける参加者